

て支援を実施している。

頼するとともに、町管理河川については、現場を確認し、緊急性の高いものから対応していきたい。

なお、西日本豪雨により土砂が堆積した普通河川については、降雨の際、浸水等で地域住民の生活に著しく支障をきたす恐れのある箇所について、町単独災害復旧工事として対応しているところである。

〔少子化対策について〕

〔現在行っている少子化対策について〕

答 当町の少子化対策としては、平成28年4月から不妊治療費助成事業を開始している。本町では特定不妊治療だけでなく、ホルモン療法など、医師が認めた一般不妊治療に対しても助成することとしており、所得制限も撤廃し、できる限り多くの対象者に利用していただけるような制度設計を行っている。

また、第1子から乳幼児用・紙おむつ券の交付を実施している。保育料の軽減措置としては、世帯で生計を一にしている子どもが複数いる場合、子どもの年齢に関わらず2人目を半額、3人目以降を無料とする措置を行っている。

また、平成28年4月から高校生までの医療費の無料化に取り組んでいる。そして、放課後児童クラブ、放課後子ども教室を設置するなど、児童の安全管理に努めながら、仕事と子育てを両立できる環境づくりに取り組んでい

る。

さらに、子育て支援センター「ゆめぽつけ」の設置や、出産後における保健師の赤ちゃん訪問、育児相談、離乳食指導や検診など、切れ目のない子育

問労働の軽減に利用する考えはないか。

答 校務用のパソコンを全教職員に配置するとともに、校務支援ソフトウェアをインストールしており、学校日誌、保健日誌、出席簿、通信簿、指導要録等を電子化することで効率化を図り、また、全校校の行事予定や連絡事項を共有できるようにするなど事務の簡素化に努めていることから事務軽減が図られ、労働時間の縮減の一助になつていている。

〔ICT活用教育について〕

〔ICT機器に要した予算は、ソフトを含めていくらなのか。〕

答 ICT機器の整備に要した金額は2億2,171万4千円、月々378万6千円のリース料を支出している。

〔ICT機器操作をマスターしている教員は何人いるのか。〕

答 小学校では、パソコンにインストールしているソフトウェア類を利用している教員は、授業を行う教員の内約90%、デジタル教科書を利用して授業を行える教員は100%である。

中学校では、インストールしているソフトウェア類を利用して授業を行える教員は、授業を行う教員の内約90%、デジタル教科書を利用して授業を行える教員は約64%である。

〔ICTを活用した授業は週何時間実施しているのか。〕

答 小学校では平均週15時間程度、中学校では平均週11時間程度である。

〔ICT活用によって教職員の長時間勤務の軽減に利用する考えはある

か。

答 団員不足や、日中地元に残つている団員が少ないなどの理由で、消防力の低下を招いている地域があるため、「機能別消防団員」としてのOB団員の再入団について、以前から協議・検討を行つていて。ただし、機能別消防団員の創設には、基本団員と機能別消防団員とのすみ分けをどのようにするか十分に検討する必要がある。

仮に入団していただいた場合、基本団員が使用する資機材はどの範囲まで使用していくだろのか、出初式等への訓練への参加の有無、報酬額の決定、公務災害が起こった場合の補償など、協議事項が数多くあるため、現段階では創設に至つてないが、団員不足と同等の課題であると認識しているので、消防団幹部会等で協議を重ねていただきたい。

◆高 橋 聖 子 議員

〔消防団について〕

〔消防団のなり手不足に伴う対策について〕

答 当町の消防団車両で3・5トンを超える車両は何台あるか。また、3・5トンを超えるポンプ車等を運転できる団員の確保が難しくなった時の対策を考えているのか。

答 3・5トンを超える車両は第1分団第5部と第6分団第1部に配備している消防ポンプ車2台である。

答 3・5トンを超える車両は第1分団第5部と第6分団第1部に配備している消防ポンプ車2台である。

答 3・5トンを超える車両は第1分団第5部に16人の団員が在籍しているが、昨年調査したところ、2つの部とも全団員が3・5トンを超える車両を運転可能な免許を保有していることが確認できたため、現時点ではそれに対する対策の検討を行つ予定はない。

〔当町の消防団車両で3・5トンを超える車両は何台あるか。また、3・5トンを超えるポンプ車等を運転できる団員の確保が難しくなった時の対策は考えているのか。〕

答 3・5トンを超える車両は第1分団第5部と第6分団第1部に配備している消防ポンプ車2台である。

答 3・5トンを超える車両は第1分団第5部に16人の団員が在籍しているが、昨年調査したところ、2つの部とも全団員が3・5トンを超える車両を運転可能な免許を保有していることが確認できたため、現時点ではそれに対する対策の検討を行つ予定はない。

◆高 橋 聖 子 議員

〔消防団について〕

〔消防団のなり手不足に伴う対策について〕

答 町内で開催されるイベントに団員が出向き、実際に消防団員の活動を見ていた、だいたり、体験していただいたうえで勧誘などをを行つていて。その他にも、町内にある県立北宇和高校で消防団の活動内容などをPRして、未来の消防団員として確保できるよう活動するなど、消防団員の確保に向けて、さまざまな取り組みを行つて

いる。

答 小学校では平均週15時間程度、中学校では平均週11時間程度である。

〔OB団員の協力を得る考えはある